

表 廃止基準の達成状況

安定型最終処分場の廃止基準10項目のうち、6項目で基準を満たしている。

廃止基準項目	処分場において実施している調査	廃止基準達成状況	
最終処分場の外に悪臭が発散しないように必要な措置が講じられていること。	硫化水素連続調査(24時間) 処分場敷地境界及び村田第二中学校において硫化水素による悪臭の影響を確認	○	<ul style="list-style-type: none"> 覆土整形(一部多機能性覆土)を実施。 平成20年12月以降0.02ppm以上の硫化水素濃度は測定されていない。
火災の発生を防止するために必要な措置が講じられていること。		○	<ul style="list-style-type: none"> 覆土, ガス抜き管を設置。 火災発生なし。
ねずみが生息し, はえその他の害虫が発生しないように必要な措置が講じられていること。		○	<ul style="list-style-type: none"> 覆土実施。 衛生害虫の異常発生等なし。
地下水等の水質検査の結果, 次のいずれにも該当していないこと。ただし, 水質の悪化が認められない場合においてはこの限りでない。 イ) 現に地下水質が基準に適合していないこと ロ) 検査結果の傾向に照らし, 基準に適合しなくなるおそれがあること	地下水水質調査(年4回) 地下水汚染又はそのおそれを把握するため上流地下水, 下流地下水において, 鉛, 砒素, BOD等を確認	△	<ul style="list-style-type: none"> H26-2でダイオキシン類が環境基準を超過したが, ダイオキシン類の組成割合から農業由来であるものと考えられる。 その他の項目については全ての地点で地下水等検査項目基準に適合しており, 上昇傾向も認められない。
埋立地からガスの発生がほとんど認められない, 又はガスの発生量の増加が2年以上にわたり認められないこと。	発生ガス等調査(月1回) 処分場内の発生ガスの状況を把握するため観測井戸における硫化水素濃度, メタン濃度等を確認	△	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングを実施した17地点のうち4地点で発生ガス量の変動が認められた。 一方, 残り13地点ではガスの発生量は0.01L/分未満と殆ど認められなかった。
埋立地の内部が周辺の地中温度に比して異常な高温になっていない*こと。 *異常な高温になっていないとは, 埋立地の内部と周辺の地中の温度の差が摂氏20℃未満である状態をいう。	地中温度調査(年4回) 廃棄物の分解による地中温度変化を把握するため, 観測井戸において鉛直方向1m毎の温度を確認	△	<ul style="list-style-type: none"> No.5については, 令和4年12月調査時より地中温度が上昇傾向にある。(周辺の対照地点との温度差は令和4年12月は11.4℃, 令和5年2月は12.4℃) その他の地点については, 周辺の対照地点との温度差が小さくなっていく傾向にある。
おおむね50cm以上の覆いにより開口部が閉鎖されていること。		○	<ul style="list-style-type: none"> 50cm以上の覆土により開口部は閉鎖されている。
現に生活環境保全上の支障が生じていないこと。		○	<ul style="list-style-type: none"> 環境モニタリングの結果から生活環境保全上の支障は生じていない。
地滑り, 沈下防止工, 雨水等排出設備について, 構造基準に適合していないと認められないこと。		○	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水溝を整備
浸透水の水質が次の要件を満たすこと。 ・地下水等検査項目: 基準に適合 ・BOD: 20mg/L以下	浸透水水質調査(年4回, ダイオキシンは年2回) 浸透水の汚染状況を把握するため, 処分場内浸透水の砒素, 1,4-ジオキサン, BOD等を確認	×	<ul style="list-style-type: none"> BODが地下水等検査項目基準超過。(ほう素, ふっ素が地下水環境基準を, ダイオキシン類が環境基準を超過した)